

『スケールの横断』 山本 晃大

私は、建築スケールだけでなく都市スケールに対しても提案できる建築家になりたいと考えています。東京工業大学において、建築に都市的な要素（広場・市場・坂道・余白等）を取り込ることによって建築と都市をどう関係づけるのかについて考えてきました。修士2年時には、スイスの建築都市設計事務所にて、1年間のインターンを経験し、そのなかで、アーバンデザインから建築、インテリアまで設計を落とし込んでいくプロセスを体感することができました。修士論文においても、この都市スケールの空間と建築スケールの空間をどう構成し、一つの建築として成立させるのか？というテーマを持ち、調査・分析を進めていきたいと思っています。

卒業後は、建築だけでなく都市規模のプロジェクトも行っている個人設計事務所に就職することを考えています。そういった設計事

務所において、様々なスケールのプロジェクトを横断しながら設計活動に励みたいと思っています。その中で、スケールを柔軟に横断する設計思想や方法を学んでいきたいです。

同時に平行して、地元である多摩NTでの団地再生・まちづくり活動に建築家・都市計画家として参加することができればと思っています。現在既に、多摩NTのまちづくり活動を行っているNPO団体や学生団体に所属して活動しています。その中で、建築に携わる者として、何か提案できることはないか模索中です。現状では、住民の高齢化や団地の老朽化などの一般的な問題が少しずつ顕著になってきている状況です。今後、日本最大規模の多摩NTにおいては、異例の速度と規模でこれらの問題が顕在化したり、新たな問題が生まれることが予測されます。そうなったときに、微力ながら、助力していくことができればと思っています。そして、郊外の団地群だからこそ生み出せる、新たな生活の場を仕立て上



げること。長い時間をかけて作り上げることが一つの目標です。その為には、アーバンデザインや従来の都市計画ではありえない、地域のコミュニティに入り込み、住民と一緒にあって空間を作り上げて行くことが重要になると考えています。

最後になりますが、私は建築家として、「アーバンデザイン」と「まちづくり」というプロセスの異なる活動に二足の草鞋を履いて携わることによって、これからの都市に積極的に関わっていく、新たな建築家としての在り方を模索していきたいと考えています。